

コロナ危機が去ったわけではありませんが、東福岡教会は5月31日より主日礼拝を教会員全員に開くこととなります。この間、霊的な飢え渇きに対応すべく詩編黙想を毎日アップしてきましたが、これで最後です。詩編 33 編を読みましょう。皆さん、詩編が身近になり、好きになりましたか？

・詩の出だしは「喜べ (rannēnū rejoice) 主にある義人よ (saddiqīm bəYahweh)」です。まっすぐに立つ人のハレルヤは美しい！ (layšārīm nāwāh təhillāh) 信仰者の生活の基調音は、なかなか旨くいきませんが、喜びであるはずです。新生讚美歌 361 は「リジョイス」という英語をそのまま採用しています。正しい人とは主を賛美する人のことであるというのも素晴らしいです。「賛美する」=ハーラルの女性形名詞が登場します。「ふさわしい」と翻訳されたヘブライ語は「似合っている」という意味で、「美しい」と翻訳可能であることも心をワクワクさせます。「豎琴」で感謝のほめ歌を奏で (hōwdū Yahweh bəkinnōwr)、「十弦の琴を奏でて」(bənēbel ‘āsōwr zammərū-lōw 十の弦のある楽器) 彼に向かって調べせよ make melody)。「新しい歌」(šir hadāš) を「美しい調べ」によって (hētībū naggēn 技術を凝らして演奏せよ)、賛美せよ (bitrū’āh 喜びの叫びで)。火災で焼けてしまったパリのノートルダム寺院の主日礼拝はパリ大学のオーケストラ演奏でした！素晴らしい！

・主の言葉に拠る天地万物の創造と保持 万物は主の御言葉によって、主の口からの息吹によって (ūbərūah、霊によって) 主のみ業として創造されています。御言葉は正しく、御業は真実であり、主は恵みの業と裁きを愛されます。信仰の基本語、「正しく」(yāšar まっすぐ)、「真実」(be’ēmūnāh アーメン)、「彼は義と公平な裁き」(sədaqāh ūmišpāt) を愛し (ōhēb)、地は主の「慈しみ」(hesed) で満ちている、の五つが登場します。大海はその果てでせき止められ、水は深淵に貯められていると考えられていたのでしょうか。万物は主なる神の秩序によってそこにあるのです。人間は無から有を作れません。「ある」ということ、「生かされていること」は神の力と恵みのしるしです。

・主は国々を支配し、人の悪たくみを砕かれる このような主なる神の創造と保持にもかかわらず、歴史は人によって歪められ、世界に悪が蔓延っているように見えます。諸国の権力者は自由気ままに支配していると思っていますが、主なる神は、一人ひとりを御覧になり、目を留め、その業を見分けられ、国々の中から、「主を神とする国」「嗣業として選ばれた民」を祝福し、諸国の民の悪たくみを砕き、挫かれます。主の企てこそ永遠に立ちます。すべては主に見られ、知られているのです！

・勝利は兵や軍馬によらず 詩編 20:8 で喝破されているように、ここでもまた、「王の勝利は兵の数によらず/勇士を救うのも (nōwōšā’) 力の強さではない。馬は勝利をもたらすものとはならず、兵の数によって救われる (yinnāsēl) のでもない。」と宣言されます。「暴力の均衡」、ミサイル、迎撃ミサイルや先端技術の粋を凝らした高価な武器が民を守るのではないということです。肝に銘じましょう。

・主を待ち望め 主なる神は、すべての民に目を留められ(14 節)、特に主を畏れる人、主の慈しみ(hesed) を待ち望む人に(lamyahālim)御目を注がれる (18 節)。生の危機に直面するとき、主は救い主としてご自身を明らかにされます。主は彼らの魂を死から救い、飢えから救い、命を得させて下さることがおできになるのです。信仰者の眼差しは過去と現在の経験から主なる神の将来に向けられます。最後は主を「待ち望むこと」(18、20(hikkətāh、強調 piel 形過去 wait, 22 節 yihalnū 強調の piel 完了形 期待して待つ) の必要が繰り返されています。世人が明日に不安と絶望を感じる時、信仰者は主を恐れ、主により頼むゆえに(bātāhēnū)、明日を待ち望み「希望」を持つことができます。